

舞鶴から見える 家族・ふるさとの すがた

家族・ふるさとの すがた

今回は、東京都に本社を構える「株式会社新開トランスポートシステムズ」代表取締役会長の古賀あやさんをお迎えました。古賀さんの祖父、河守浩さんは舞鶴市出身で東京に移ってからも「ふるさと舞鶴」は特別なものだったようです。
古賀さんにとっての祖父のふるさとのイメージや、会社経営を通じて思う「人を育てること」などについて多々見市長と対談しました。



対談の会場は引揚記念館



（株）新開トランスポートシステムズ
代表取締役会長

古賀あや氏
プロフィール
創業者 河守浩氏の孫にあたり、二代目である父、河守和彦氏の後継者として入社し、分離していた（株）新開と（株）新開ティ・エスを合併させる。現在は、（株）新開トランスポートシステムズの代表取締役会長。

古賀あや氏

古賀さん（以下敬称略） 毎年、春に舞鶴に来ていましたが、当時は「こだま」で東京から京都まで6時間かかりまして、京都に1泊してから舞鶴に。いつも「いざさ」をいただいた思い出があります。祖父の同級生が集まってくださって、にぎやかでした。もう代は替わられて

れましたか。

古賀 私が一番感じたのは、人を引き付ける何かを感じました。以前は全く感じませんでしたが、電車の中でも、まちに着いても変わったなと感じました。

市長 舞鶴に人を引きつけるものが少し出て来たということでしょうか。

古賀 東京でも「舞鶴」という言葉をよく耳にするようになりました。お店で大きな「岩がき」があった時に「舞鶴の…」って。



市長 舞鶴にはたくさん我慢できるおいしい食べ物があります。東京で2年連続「舞鶴フェア」を開催して、舞鶴の食材やお茶などを外に向けてPRしているところですが、舞鶴にずっと住んでいる人は、「舞鶴には何もない」と子どもや孫に言っています。私は金沢から来ましたが、「いいところもいっぱいあるし、食べ物もいくらでもおいしいものがある」と言うんですけれど。

自分のまちに誇りを持つことが「地方創生」だと思っています。企業誘致をすることも大切ですが、地元の人々が元気になることが本来の地方創生だと。東京の人たちも「舞鶴いいところじゃない！」と言ってくれるんですよ。ぜひ、舞鶴に住んでいた人や、ゆかりの人から聞いてもらいたいと思います。

舞鶴には歴史もあるし、市民の皆さんの頑張りで引揚記念館の所蔵資料がユネスコ世界記憶遺産に登録されるなど、誇れるものはたくさんあります。

舞鶴市市長

多々見良二



古賀 父も祖父の影響を大きく受けていたと思います。食は大切です。小さい頃に食べた味は忘れられないもので、また食べたいと思いますものね。

市長 小さい頃に自然と多く触れ合うことがとても大切で、その時の経験がいろんな発想につながると思っています。自然を感じられる地方の良さをアピールしたいと思っています。

て、子ども達の自由や自分から挑戦することが妨げられている。大人は遠巻きで見守っていて、ある程度、子ども達を自由にさせてやる方が、いろんな発想につながり、反対に伸びるんじゃないかと思いません。

古賀 私も小さい頃にそういう経験をすることはとても大切だと思います。

市長 あまりに守られ過ぎていいように思います。

古賀 今の子ども達は、整い過ぎているというか、守られ過ぎていいように思います。

市長 今の子ども達は、整い過ぎているというか、守られ過ぎていいように思います。

古賀 はい（笑）。よく叱られました。祖父はよく叱る時に、あほの上

